

平成29年度第1回対馬市総合教育会議 会議録（概要）

- 1 開催日時
平成29年7月28日（金）午後4時～午後5時30分
- 2 開催場所
対馬市交流センター3階第6会議室
- 3 出席者
比田勝尚喜市長
吉野建實委員、佐伯康弘委員、一宮恵津子委員、齋藤豪委員
永留和博教育長
- 4 欠席者
なし
- 5 事務局
総務部総務課 有江総務部長、松井総務課長、木屋課長補佐
教育委員会事務局 須川教育部長、松尾教育次長、阿比留課長補佐
- 6 議題等
・対馬市教育振興基本計画について
- 7 会議の要旨

事務局 皆さん、こんにちは。お忙しいところお集まりいただきまして、誠にありがとうございます。私、総務課の松井と申します。よろしくお願いたします。

それでは、ただいまから平成29年度第1回対馬市総合教育会議を開催いたします。

総合教育会議は、本市の教育全般に資するため、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第1条の4第1項の規定に基づき、設置されたものでございます。

会議においては、市長と教育委員会が十分に意思の疎通を図り、本市の教育に関する課題やあるべき姿を共有し、連携して教育行政に取り組むための協議の場でございます。

まず、開会にあたりまして、市長より挨拶を申し上げます。

市長 どうも皆さん、こんにちは。委員の皆様には、ご多用な中、総合教育会議にご出席を賜りまして、誠にありがとうございます。

日頃より、対馬市の教育行政につきまして、ご指導ご協力を賜り、重ねてお礼申し上げます。

また、吉野委員におかれましては、平成33年6月まで4年間、教育委員をお引き受けいただきまして、引き続き、その経験と識見を教育行政推進のためにお引き受けいただき、感謝を申し上げます。今後ともよろしくお願いいたします。

さて、少子高齢化や高度情報化など、教育を取り巻く社会情勢は大

大きく変化しております。学力、学習意欲や規範意識、体力、運動能力などに関するさまざまな課題が指摘されております。こうした中で、これからの教育にありまして、個々の課題について適切に対応するとともに、学校、家庭、地域など、社会を挙げて教育全般にわたる総合的な取り組みが求められているところでございます。

今年度は、いじめや不登校など、児童・生徒を取り巻く様々な問題に対するソーシャルワーカー派遣事業、電子黒板の導入、イングリッシュデー授業、施設環境の整備事業、夢づくり基金を活用した子どもの活動支援のため、費用を予算化したところでございます。

また、6月10日には、総合運動公園陸上競技場が全天候型競技場として生まれ変わりました。陸上協議関係者の念願の施設であり、上位大会におけるハンデも解消され、対馬代表選手のますますの活躍を期待しているところでございます。さらに、8月20日には、対馬市としては初めての事業となります子ども議会を開催いたします。現在、通告された一般質問の答弁の調整中でございますが、子ども目線からの斬新な発想による提案も行われております。主権者教育の実践の場として、まちづくりに関心を深め、将来を担う子どもたちの育成の一助とすることを目的としております。

教育委員会において、本年3月に策定されました対馬市教育振興基本計画は、平成28年度から32年度までの5カ年計画で、その進捗管理も行われることが明記されておりますが、実質は29年度がスタートになるかと思えます。本日は、委員皆様が日常の中で感じられていることなど、計画推進のヒントとなる意見が交換できればと存じております。

簡単ではございますけれども、開会にあたっての挨拶とさせていただきます。本日は、よろしく願いいたします。

事務局

ありがとうございました。

これからは、着座のまま進めさせていただきたいと思えます。

それでは、会議のほうを進めさせていただきます。

議題に入ります。

1点目の対馬市教育振興基本計画について、教育委員会の事務局のほうから説明をお願いいたします。

教育次長

それでは、私のほうより説明させていただきます。

お手元の対馬市教育振興基本計画をご覧ください。これに沿って説明をしていきますので、よろしく願いします。

【対馬市教育振興基本計画の説明】

- 事務局 ありがとうございます。
- それでは、対馬市教育振興基本計画につきまして、ご質問ご意見等の交換をしたいと考えております。どなたからでも構いませんので、よろしく願いいたします。
- 委 員 2点ほどお尋ねします。
- まず1点目は、夢づくり基金の活用につきまして、お尋ねします。
- 子どもたちが島内に残るような手だてとしての支援金の活用の仕方がとれないかというような思いがあります。お祝い金を大学や就職した場合に、各高校生にやっていच्छゃると思います。その祝い金もありがたいとは思いますが、できれば、人口の減少がありますし、高校生が島内に残って対馬のために何か働ける。そういう形への夢づくり基金の活用の仕方ができないものかと思っています。
- 教育部長 一宮委員さんの夢づくり基金の活用で、高校生等が島内に残るための基金の活用はできないかということですが、前にも説明しておりますが、夢づくり基金に関しては、今の段階ではその助成というのは現在のところ、まだ対象となっていない状況でございます。
- 市 長 高校または大学等を卒業して2年ぐらいい対馬に帰ってきて就職をしたという方には、月1人10万円、奨励金を出しています。
- 今後、対馬だけでなく、島外からのUターン又はIターン等を呼び込むための施策といたしまして、結婚の奨励金や引っ越し費用の助成とか、そういった面での施策を今、予算に計上しています。
- 委 員 2点目です。対馬高校に国際文化交流コースがあつて、実績も上げていますが、その中で対馬市役所のほうに就職したいとか、そのような希望が少しずつ出てきています。学力を活かしてという部分があるんですけど。市役所の方での必要性みたいなことは、ございませんか。
- 事務局 厳しいと思います。昨年、韓国の大学を卒業された方を採用している実績がございます。こちらとしては、即戦力でお願いしたいと。これだけ観光客が急増している状況ですので、日常の会話ぐらいいはすぐに行けるような職員がほしいということで募集しております。市役所の試験の形からすれば、一般行政職で受験をしていただく方法しかございません。
- 委 員 対馬高校の国際文化交流コースを卒業してすぐという考え方ではなく、例えば、韓国の大学へ行って帰ってきた場合、そういうふうな一般の方と全く一緒、条件が特に整っているわけではないということですよ。

事務局 はい。

委員 そうということが知りたかった。

もう1点、お願いします。

学校統合の問題で、大調小学校が金田小学校に統合するとお聞きしました。通学路につきまして、石や枯れ葉が道路に広がり、スクールバスが通うには、邪魔な部分があります。通学路の清掃作業はあるのでしょうか。

市長 それにつきましては、県道又は市道でございますけど、最近、地区からの要望事項としても、道路上に木が覆い被さっているということでの伐採の要望があります。

ただ、個人の財産になるものですから、なかなか勝手に切るわけにもいかないのです。地権者の了解を得た上で、市で切っているケースもあります。中には、地区の方をお願いして、地区で切っているケースもあり、ケースバイケースというような状況です。

事務局 他にございませんでしょうか。

委員 よろしいでしょうか。2点ほどあります。

今、スクールソーシャルワーカーの方が入り込まれて、随分と学校のほうも雰囲気が変わってきているなというふうに感じております。ただ、その運用が非常に難しく感じている点が、保護者でもあり、地域住民の一人でありということを感じている点が、スクールソーシャルワーカーって学校の一員ではないので、外部の人ということになるわけですね。

学校があつて、子どもがいて、親がいて、そこに行政側から福祉課が入ってきたり、民生児童委員さんが入ってくる。また、社会福祉協議会も入ってくる。横や縦のつながりや、具体的な仕組みなどの全体像を把握できる人がなかなかいないんじゃないかなと感じています。私が知らないだけなのかもしれませんが、もしそういう仕組みがなければ、なんらかの連絡協議会なりをつくっていただくほうが、子どもの全体的な見守りのためにはいいのではなかろうかと、切実に感じている部分がございます。いろいろなところが責任を持ってやっていらっしゃることはわかるんですが、現状がわかれば教えていただきたいと思えます。

次に、教育大綱や基本計画の中に、ふるさと学習があります。単一のものではなくて、全ての教科に結びつけた中で、ふるさと学習の推進を図るように各学校に依頼していると、計画も作成してもらっているというふうなことでした。感じているのは、入口ができつつあるの

かなと思います。入口があれば出口がほしいなというふうに感じることがあります。さまざまな大学とかと、かかわりが深く持っていらっしゃる場所があるかと思いますが。特に、遺跡関係です。熊本大学と連携をなさるとか、さまざまなお話を聞いておりますので、対馬の子どもたちが対馬学という形で学んでいるものを、大学等で、また子どもたちの活躍の場にさせていただくような取り組みができないものかなというふうに感じています。ちょっと大ざっぱな質問で申しわけないんですけども、対馬学のこととかどのようにお考えなのか、どのような状況かなということでお尋ねしたいと思います。

教育部長 学校からスクールソーシャルワーカーの派遣要請を市教委が受け、市教委が調整します。スクールソーシャルワーカーが学校へおもむき、実態把握をした上で、関係機関と協議します。

委員 そのように必要性を感じられたときに、個別に調整をされて、ほかの関係機関と共同で対処される形ということですね。

教育部長 はい。そのためにケース会議を開きます。ケース会議というのは、必要な関係機関に呼びかけます。福祉関係から来てもらうこともあるし、警察機関に来てもらうこともあります。そういう会議で協議しながら進めております。

ふるさと学習についてですが、例えば、ふるさと学習をして対馬の良さに気づいて、「私は将来、対馬で生きていこう」という思いを育てたり、「私の生まれ育ったところはすばらしいんだ」という自信ができれば、島外に出たときに「私のところはこんなにすごいんだよ」というアピールができていくんじゃないかと。そういう人たちが、そういう子どもたちが対馬に誇りを持つことによって、Uターンしてくるであとか、そういうものにつなげていければとは思っています。

委員 そうですね。Uターンしてきていただきたいですね。

対馬市も人口減少が続いていますので、より多くの人たちが来てくれるような魅力を、今から開発をしていかなければならないと思うところです。ぜひ、ふるさと学習の方向性を強く進めていただきたいと思っております。

委員 振興計画の件についていいですか。振興計画で学校施設の老朽化している校舎の早期着工といいますか、予算についてはどのようなようになっているのか。

教育部長 振興計画で老朽化している校舎の建て替えを計上しておりますが、その前に、老朽化に伴う危険箇所の修理等を先行していこうと思っています。

 今、市の方で、公共施設等総合管理計画を28年度に計画をいたしまして、29年度にそれぞれの施設の統合協議等、個別計画を作成し、今後の計画を立てていこうという方向性を持っています。

事務局 全国各地で高度成長時代に建てられた施設が、老朽化して、それをどうするかというのが問題になってきています。今、教育部長が言われたように、昨年28年度に対馬市全体の学校施設とか、全ての施設の管理計画を作成しました。本年度に個別計画、学校施設、医療施設、統廃合施設それぞれに今後の答申をまとめ、作成し、来年度以降は、その計画に沿った形ですすめて行きます。

事務局 他にございませんでしょうか。

 ないようでございますので、これもちまして平成29年第1回総合教育会議を終了したいと思います。